

2021年度

事業報告書

特定非営利活動法人ピッコラーレ

1 事業の成果

妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」の相談数が横ばいから減少に転じたため、相談窓口の広報の見直し、およびSNS(twitter)を活用した新たな相談窓口の検討を行い試験導入を実施。その結果、21年度下期以降相談数が再び上昇してきている。医療機関や行政窓口等への同行支援や他機関との連携を必要とするケースは増加傾向が続いているが、前年度に見直しを行った(窓口を支える)新たな運営体制が定着したことで、より複雑化・多様化する支援への対応にも各関連機関と丁寧に連携しながら、相談者一人ひとりの必要に合わせた支援を続けることができている。

2年目の運営に入った「ぴさら」(居所のない妊婦のための居場所づくりprojectHOMEのHOME第1号@豊島区)は、行政機関や他民間団体からの問い合わせが増加し、宿泊は年間を通して80%以上の稼働となった。途切れることのない問い合わせに「ぴさら」のような、本人の自己決定を支える柔軟さを持ち合わせた居場所が社会的にいかに必要とされているか、改めて実感する1年となった。宿泊に加え、日帰り利用の希望も増えており、キャパシティの課題が出てきている。この点については22年度に具体的な施策検討を行っていききたい。project HOMEの一環である「ピコの保健室」は、中高生が集まる地域の居場所へ出向いて「包括的性教育」を行う「出張保健室」を中心に活動した。地域に根ざした「保健室」のニーズは高いと感じており、来年度以降も継続的に展開していく。また21年8月より、「ピコの保健室」の新たな展開として、主に10～20代の女の子・女性のための居場所「ぴこカフェ」(豊島区より委託)を開始。幅広い相談に対応する居場所として運営を行ったが、生理用品の無料配布等を通して、体のこと、関係性、パートナーシップなどについての相談機会も積極的に提供し、利用者からも好評を得ている。

4年目となる支援者育成研修(研修A&B)については、研修の認知度も年々上昇しており、受講者数も順調に増加している。研修受講者の中から21年度も新たな相談員がうまれており、採用/人材育成の場としてもうまく機能している。22年度以降はこれまでの研修で積み重ねてきた知見/経験を活かしながら、新たな取組として、行政や企業向けの出張型パッケージ研修の開発に取り組み、提供を開始したい。

21年度は、「妊娠葛藤白書」(2021年4月1日発行)を活用した政策提言活動にも力を入れた。緊急避妊薬の早期OTC化を求める要望書の提出など、窓口へ届く相談者の声を制度作りの現場へ届けてきたが、変化の道は険しい。しかしながら、2022年度も、相談者の必要に合わせた各活動を安定的に行いながら、妊娠葛藤を生み出す社会制度/構造への変革に向けて、白書等を活用しつつ提言/啓発の活動を継続的に行っていききたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【85,982】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業	<p>●妊娠葛藤相談窓口の運営</p> <p>1.にんしん SOS 東京 2.にんしん SOS 埼玉 3.にんしん SOS ちば</p> <p>※産む・産まない、育てる・育てないにかかわらず、にんしんにまつわる全ての「困った」「どうしよう」に寄り添う</p>	<p>【相談窓口開設時間】</p> <p>1.にんしんSOS東京(自主運営):365日16:00～23:00(電話) 2.にんしんSOS埼玉(埼玉県より委託):365日16:00～23:00(電話) 3.にんしんSOSちば(千葉県より委託):365日16:00～</p>	<p>【相談受付方法】</p> <p>メール・電話・twitter ※twitter相談は「にんしんSOS東京」のみで実施</p>	約40名	日本全国	<p>【妊娠葛藤相談窓口】</p> <p>・相談人数2236人 ・相談延回数:12,447回 ・同行支援回数:64回 ※いずれも3つの窓口の合計数</p>	45,901

	<p>23:00 (電話)</p> <p>※3つの窓口共通:メールは24時間年中無休で受付・必要に応じて医療機関や行政への同行支援を実施</p> <p>4.産科等医療機関などへの同行支援を行う事業(東京都より受託:21年4月～7月まで)</p> <p>● 中絶後の相談窓口の運営</p>	<p>【相談窓口開設時間】 メールにて24時間年中無休で受付(返信対応は1回/週)</p>	<p>※同行支援については、相談者が居住する地域にアウトリーチ</p> <p>中絶後の相談窓口は、メールのみで受付</p>			<p>【中絶後の相談窓口】</p> <p>・相談人数34人 ・相談延回数214回</p>	
	<p>● 支援者養成研修「思いかへけない妊娠相談事例から学ぶセミナー(A&B研修)」の開催</p>	<p>A:2021/10/10 B:2021/10/31&11/6</p>	<p>A:オンライン B:豊島区(東京)</p>	<p>約10名 約10名</p>	<p>日本 全国</p>	<p>参加人数 A:97名/定員100 B:48名/定員50</p>	
	<p>●「妊娠葛藤白書」販売(2021年4月1日発行)</p> <p>●「妊娠葛藤白書」を活用した政策提言活動</p>	<p>通年</p>	<p>オンライン販売 提言先:厚労省他</p>	<p>約10名</p>	<p>日本 全国</p>	<p>販売数:558冊</p>	
	<p>●妊娠葛藤を取り巻く課題を啓発するための講演活動</p>	<p>依頼に応じて</p>	<p>オンラインを中心に講演</p>	<p>約10名</p>	<p>日本 全国</p>	<p>約4,000人</p>	
<p>青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関する事業</p>	<p>● 居所のない妊婦のための居場所づくり「project HOME」</p> <p>1.「びさら」の運営 2.リサーチ活動 3.他地域で妊産婦の居場所運営を行っている団体との共同勉強会実施</p>	<p>通年</p>	<p>豊島区</p>	<p>約25名</p>	<p>関東圏を中心に日本全国</p>	<p>【びさら利用状況】 宿泊利用人数(妊産婦8人/新生児3人/幼児1人/パートナー2人) 延宿泊数:667泊 デイ利用延べ人数:89人 【共同勉強会】 実施回数:3回 延べ参加人数:約50人</p>	<p>40,080</p>
	<p>●ピコの保健室 主に10代を対象とした包括的性教育の継続的実践</p> <p>1.来所型 2.出張型 ※他機関(学校や地域のユースセンター等)と連携した</p>	<p>【ピコの保健室開催日】 1.来所型:随時 2.出張型:各施設で月1回程度 3.講演型:依頼に応じて</p>	<p>豊島区を中心に関東圏</p>	<p>約5名</p>	<p>日本 全国</p>	<p>【ピコの保健室】 1～3合計: 約600人 出張保健室:29回開催</p>	

出張型保健室 3.講演型	<p>●びこカフェの運営 主に10・20代の若年女性を対象に、安心して相談もできる居場所の運営(豊島区より委託) ※生理用品の無料配布等を通して、体のこと、関係性、パートナーシップなどについての相談機会も積極的に提供</p>	<p>【びこカフェ開催日】 ・月2回(第2火曜日、第4日曜日)15:00～19:00 ※21年8月～22年3月</p>	池袋サンシャインシティ内 GLOCAL CAFE	約10名	豊島区を中心に関東圏	包括的性教育講座: 3回開催 【びこカフェ利用者数】 ・110名	
-----------------	--	---	-----------------------------	------	------------	---	--